資料３－１

平日夜間・休日における外来薬物（化学）療法体制整備事業について（実績）

施設名	国家公務員共済組合連合会立川病院	東京都立駒込病院
施設の種類	東京都がん診療連携協力病院	都道府県がん診療連携拠点病院
所在地（圏域）	立川市（北多摩西部）	文京区（区中央部）
病床数	４５０床 （一般４０６床、精神３８床、感染症６床）	８１５床 （一般７８５床、感染症３０床）
外来薬物（化学）療法設備	ベッド：６床　リクライニングチェア：10台	ベッド：36床　リクライニングチェア：14台
外来薬物（化学）療法件数（平日日中）	２，４２０件（平成３１（令和元）年度）	１４，６４８件（平成３１（令和元）年度）
実施日時等	平日夜間（月・木曜日　17：15-21：30）	休日（土曜日　9：00-14：00） 日帰り入院にて実施
診療体制	医師：２名　看護師：１名　薬剤師：１名 検査技師：１名　事務職員：１名	医師：１名　看護師：４名　薬剤師：３名 臨床検査技師：１名
実施件数（延べ件数）（平成31（令和元）年度）	８１件	２件
実施件数（延べ件数）（令和２年度）	６２件	０件
収支の実績（平成31（令和元）年度）	▲　2,212,062円	▲　58,886円
収支の実績（令和２年度）	▲　2,004,377円	0円

平日夜間・休日における外来薬物（化学）療法体制整備事業について（事業を実施して見えてきたこと）

１　事業利用者の傾向は限定的

○　本事業を利用した人については治療日時の選択肢が増え、治療と仕事の両立ができていることがわかった。

○　本事業の利用者が比較的多いのは乳腺外科であった。
　特に、ホルモン療法のニーズは一定程度あった。理由としては、抗がん剤を使用する治療に比べ、体調が急変する可能性や、治療後の体調への影響が少ないことなどによることが挙げられる。

○　乳腺外科に比べると、泌尿器科をはじめとした他の診療科や、希少な病気である若年のがん患者は、本事業の対象となりえないことが多かった。

○　治療後の体調悪化の可能性や家庭環境などにより、利用条件に合致する患者は限定的となり、実績は想定よりも少なかった。

○　身体的負担からきちんと休暇を取って、受診することを希望している患者もいた。

２　医師等の勤務体制・診療体制の確保が困難

○　抗がん剤での治療を夜間や休日に行うことや、治療中の患者の状態急変への対応を想定すると、各診療科の医療スタッフが必要となるため、診療体制の確保が課題である（ホルモン療法に関しては、この観点からの心配はなく、夜間や休日に実施しやすいことが考えられる。）。

○　特別な体制はとらず、既存の体制で事業実施する場合、スタッフは超過勤務での対応にならざるを得ず、現在の働き方の方向性に逆行している。
　また、特別な体制をとる場合は、収支が悪化してしまうことが考えられる。

３　事業利用者のニーズや診療体制等を考慮すると、収益は赤字

○　事業利用者の傾向や医師等の体制を踏まえ、新たな体制を構築した場合のスタッフの人件費などを考慮すると、診療報酬では採算が合わない。

４　就労中の患者の受療動向の変化

○　新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、テレワークや時差出勤等の柔軟な働き方が推進されたことにより、平日日中に受療する患者が増加傾向にある。